

琉球弧の島々に 次々と自衛隊配備

陸上自衛隊と米陸軍の共同訓練（矢白演習場 2023年10月）



写真：出典 防衛省ホームページ

- ▲ 建設中の自衛隊基地
- 今までにある自衛隊基地（大きな丸はミサイル配備）
- ▲ 建設中および計画中の米軍基地
- 今までにある米軍基地



「日本が再び戦争する」

なんてありえない？

第一部 講演 半田 滋さん（ジャーナリスト）

「敵基地攻撃と日米一体化」

～防衛費倍増は国民負担に～

第二部 パネルディスカッション 半田 滋、牛島 貞満、水沢 澄江、 明治学院大生、和光大生（司会：平良 愛香）

石垣島・宮古島などに対中国ミサイルが配備され、今後九州への配備も考えられています。沖縄では公道を戦車が通り、日常生活の中で「戦争」の危機を肌で感じています。韓島の12万人を九州へ「疎開」させるという非現実的な案を政府は指示しています。攻撃されることを想定して、全国の自衛隊基地の強靱化（地下化）が進められています。これらの動きは住民を守ることはありません。講師の半田滋さんから、トランプ政権の動きと日米両政府の戦争準備についてうかがい、再び戦争に向かわないために何ができるかを考えましょう。

《沖縄のつどい2025》7月4日（金）

開演：18：20～20：45（18：00開場）

会場：明治学院大学白金キャンパス本館1階 1101教室 定員300名

資料代：500円（学生・明治学院大関係者無料） 事前申し込み不要

主催 沖縄のつどい実行委員会（宮森・630を伝える会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、公益財団法人原爆の図丸末美術館、ピース・ニュース、平和を実現するキリスト者ネット）
共催 明治学院大学国際平和研究所 賛同 公益財団法人東京YWCA、沖縄戦首脳会の会、沖縄平和ネットワーク首脳会の会

基地がある限り、 安全な日はこない！

(キーストン提供)

米軍機のエンジン部分が
突っ込んだ6年3組の教室



ヘリ墜落の際もまるで米軍政下時と同じように、米軍による現場の封鎖が行われました。その後も、普天間基地所属のオスプレイが名護市安部の沿岸に墜落したり、米軍機の部品が保育園や小学校に落とされたりしています。沖縄に限ったことではありません。2023年11月には横田基地所属のオスプレイが鹿児島県屋久島沖に墜落し、死者・行方不明者8人の大事故を起こしています。首都圏でもオスプレイの離着陸や羽村市の中学校の校庭へのパラシュート落下などがあり、大きな事故が起こる可能性は、日本中いつでもどこでもあるのです。

沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件

子どもたちがいる教室に、米軍機が突っ込んでくる、そんなことをあなたは想像できますか？

66年前の1959年6月30日、嘉手納基地を発進した米軍のジェット戦闘機は、沖縄県うるま市(旧石川市)の住宅地に墜落炎上し、機体の一部が宮森小学校の教室に突っ込みました。死者18名(児童11名、住民6名、さらに児童の1名が大学入学後に後遺症で亡くなる)、負傷者212名(児童156名、職員2名、住民54名)、小学校、公民館、民家25棟が全半焼。——米軍による最大の基地被害の事件です。普天間や嘉手納をはじめとする基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件が教えてくれます。沖縄の「本土復帰」から32年後、2004年沖縄国際大学米軍

《半田 滋 (はんだ・しげる) さんプロフィール》



1955年(昭和30)年生まれ。防衛ジャーナリスト、獨協大学非常勤講師、元東京新聞論説兼編集委員。元法政大学兼任講師。元海上保安庁政策アドバイザー。92年より防衛庁(省)取材を担当。2007年、東京新聞・中日新聞連載の「新防人考」で第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞(大賞)を受賞。

▲ 会場『明治学院大学白金校舎』

「白金台駅」2番出口・「白金高輪駅」1番出口・「高輪台駅」A2出口 徒歩7分

連絡先：090-1837-4579 (松本) / E-mail: hyoteki.sagamihara@gmail.com